



主任コラム4月号

主任 澤井 良子

ご入園、ご進級おめでとうございます。3月27日には21名の年長児が、ながさわ保育園を卒園し、14名のお友達が入園してくれました。入園してすぐは、お子さんも家庭から子ども集団の中に入り、初めての体験に戸惑いや不安もあると思います。職員一同、一人ひとりの子どもに寄り添いながら保育していき、進級した子ども達にとっても安心できる場となるようにしていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

生活発表会が終わり、少しずつ担任と一緒に新クラスに向けての移行をすすめてきました。特に、新年少児は、同年齢だけの集団から大きな集団での異年齢クラスに入っていきます。これまで2歳児として単独のクラスで過ごしてきた子どもたちは、新しく異年齢に入ることに戸惑いや、不安を感じる姿もみられました。そこで、各クラスの担任を中心に、一人ひとりの様子に合わせて丁寧に関わりながら、少しずつ新しい環境に慣れていけるようにして行きました。

最初は、大人との関わりの中で安心感を育みながら、少しずつ友達との関わりを広げていきます。無理に関わらせるのではなく「一緒にいたい」「やってみよう」という気持ちが育つことを大切にしていきます。異年齢保育は、ただ年齢を混ぜることが目的ではなく、子ども同士が学び合い育ち合うことが大事です。年上の子は思いやりや責任感を育み、年下の子は憧れや意欲を持ちながら挑戦していきます。こうした関わりの中で、子ども達は少しずつ自分の居場所を見つけ、安心して過ごせるようになっていきます。新しいクラスの集団の中で、様々な関係を築いていく姿を温かく見守ってきたいと思います。

そして、新2歳児歳児は、単独クラスになります。自我の芽生えがはっきりしてきて、「自分でやりたい!」「いや!」が強くなる時期でもあります。保護者の方も自己主張で悩まれることもあるかと思いますが、その思いをしっかり受け止めながら言葉や人との関わりを土台を育てていきます。この時期に丁寧に関わることで、その後の異年齢の集団の中でも、自分の気持ちを出しながら、友達と関わる力へと繋がっていきます。

また、0・1歳児は、発達の差が大きく、まずは安心して過ごすことがなにより大事な時期です。そのため年齢で分けるのではなく、一人ひとりの発達に合わせて、落ち着いた環境の中で丁寧に関わることを大切にしています。同じ空間で過ごす中で、少し大きい子の姿を見て真似をしたり、人との関わりのおかげが自然と生まれていきます。こうした経験が人と関わる力の土台となります。

ながさわ保育園では、このように発達に応じた関わりをしています。これから1年間、子どもたち一人ひとりの育ちを大切にしながら、子どもたちが自分らしく安心して過ごせるように支えていきたいと思っております。

